

イエズス会サンタ・ロサ布教区 (現パラグアイ) の洗礼簿と住民名簿 (padrón) からみるカシカスゴと代父母制度 (compadrazgo) の関係

武田和久 (明治大学)

キーワード：洗礼簿 (libro de bautismos)、住民名簿 (padrón)、カシカスゴ (cacicazgo)、代父 (padrino)、グアラニ先住民 (indios guaraníes)

本報告では、植民地期パラグアイ南部の小村サンタ・ロサ (元はイエズス会士が建設した布教区 *reducción, misión* の一つ) の住民グアラニを対象とした洗礼簿 (Libro de bautismos, 1754-1764) と、住民名簿 (padrón) とを比較分析した。

分析対象とした洗礼簿の上記 11 年間には計 1854 件の新生児に対して洗礼が行われたが、このうち 360 件以上の洗礼式において、代父 (padrino) として新生児と霊的な姻戚関係を結んだ男性グアラニがいた一方で、わずか 1 件の洗礼においてのみ代父となった男性グアラニがいたなど、これまでの研究で全く指摘されてこなかった興味深い結果が洗礼簿の分析を通じて明らかになった。

そしてこの結果を住民名簿と照らし合わせたところ、代父となる人物が持つ苗字は、サンタ・ロサ布教区の発足当初から存在したカシカスゴと深い関係があったこと、またこうしたカシカスゴの起源は、サンタ・ロサ布教区の主村にあたるヌエストラ・セニョーラ・デ・フェ布教区にまでさかのぼれることが明らかになった。つまり代父は由緒ある、社会的な威信の高い、長い歴史を有するカシカスゴから輩出されていたということである。また、わずか 1 件の洗礼でのみ代父となった人物の苗字を住民名簿と照らし合わせると、同じ苗字を持つ人物が 17 世紀後半のヌエストラ・セニョーラ・デ・フェ布教区で歌手 (cantor) や助手 (paje) として働いていたことが判明した。前者はミサなどで歌を披露する聖歌隊員に等しい役割を有し、後者はイエズス会士に直属して様々な業務の補佐をする人物であり、いずれも布教区の中では特権的な役職とされていた。18 世紀後半のサンタ・ロサ布教区でこうした特定の苗字を持つ人物から代父が輩出されていたという事実は、代父は決して適当に決められていたわけではなく、布教区内の特定集団、言うなればエリート集団から選抜されていた可能性を示唆している。

〔主要参考文献〕

Libro de bautismos de Santa Rosa, 1754-1764, Paraguay, FamilySearch

(<https://www.familysearch.org/search/collection/1922527>).

Padrón del pueblo de Nuestra Señora de Fe, Archivo General de la Nación, Buenos Aires, Argentina.

Padrón del pueblo de Santa Rosa, Archivo General de la Nación, Buenos Aires, Argentina.